

まち  
里海づくり通信 臨時号

# 大谷地域復興へ前進

## 大谷海岸防潮堤工事きよう着工

わが古里の復興のシンボルとなる大谷海岸周辺復興工事が、きよう20日、着工式を迎える。東日本大震災からまもなく丸7年を迎えようとしている中の着工は、感慨ひとしおで、地域をあげて喜びたい。3年後の完成を待つとともに、大谷地域の創造的復興への決意を新たにしたい。

### 住民と行政の連携実る

大谷海岸への防潮堤建設計画は当初、砂浜にせり出す形で、海拔9・8メートル幅40メートルの防潮堤が予定されました。しかし、多くの住民が、砂浜を守ることを望み、大谷地区振興会連絡協議会が、砂浜の確保などを求める署名運動を展開し、気仙沼市に計画の一旦停止と、住民意見の反映を求めた署名簿を提出しました。

その後、地区内の若手有志を中心に組織した、私たち里海まちづくり検討委員会や振興会連絡協議会が防潮堤のセトバック、国道の嵩上げを求め、国、県、市と協議を重ねてきました。

することなどを求めてきました。単なる防潮堤機能だけでなく、海水浴場という観光面にも配慮する形での提案、要望を続け、おおむね合意できたことで、きよう20日、工事安全祈願祭、着工式を迎えました。あらためて、住民のみならず、そして国、県、市の行政の方々のおかげであると感謝します。

### 完成は3年後

防潮堤延長677メートル、嵩上げされる国道延長は980メートル。防潮堤と同じ高さで、現国道の位置のまま嵩上げを行うため、北側に切り直し道路も整備するという大工事です。特定建設工事共同企業体(五洋建設・本間組・只野組)によって、工事が進められ、約3年後の完成が見込まれています。

西側で工事が進められる林野庁による防潮堤工事と合わせ、一帯の整備が完成すれば、復興のモデルとして、全国に自慢できる大谷海岸となるでしょう。震災前同様、いやそれ以上に県内外から多くの海水浴客でにぎわうことを願っています。

### これからが正念場

海水浴場の復活とともに、市内唯一の道の駅「大谷海岸」

が、工事に伴って新しくなる予定です。近くに三陸道インターチェンジができますことから、大谷海岸周辺は、一段とにぎわいが増すことが期待されます。

三陸道の開通によって、大谷海岸、道の駅前を通る車両は減りそうですが、逆に仙台圏や登米、一関方面など内陸からの誘客が期待されます。大谷の魅力を磨きながら、町内のモーランド本吉、徳仙丈、田東山をはじめ、隣接の階上に完成する震災遺構の気仙沼向洋高校校舎、景勝地岩井崎、さらに、気仙沼内湾、大島などにつながる観光拠点として連携し、地域振興、観光振興など図っていかねばならないと思っています。

今後も気を緩めことなく、復興のモデル地区として、地域のにぎわいづくりに貢献できるように、微力ながら活動していきたいです。

### いつでも帰れる場所 大谷海岸。

なお、わたしたちが考えた地域整備のコンセプト・スローガンは「いつでも帰れる場所 大谷海岸。」―砂浜を守る想いから始まるまちづくり―としました。

大谷海岸が、古里、実家のよういつでも安心して過ごせる場所、どんな時でも帰ってこられる地域であってほしいという願いを込めました。ここ大谷に住んで良かった、住んでみたいと思われる地域に、そして住民、観光客、全国、海外の人からも永遠に親しまれる地域なるよう、わたしたちは今後も気を緩めることなく、地域の一員として勉強を続け、よりよい地域づくりに参加していきたいと思えます。



発行「大谷里海(まち)づくり検討委員会」